

# しまなみ海道はバランスのとれた海事クラスター



みに やすひさ  
**三谷 泰久** 国土交通省中国運輸局次長

海事都市尾道推進協議会を尾道市とともに支えているのが国土交通省中国運輸局だ。三谷泰久次長は、尾道や両隣の福山、三原、対岸の今治といった広がりについて「しまなみ海道はバランスのとれた海事クラスター」と位置づけ、尾道の果たす役割に期待を示した。

**造船業の国際競争が激しい。それに打ち勝つためには。**

「国交省は2011年7月『総合的な新造船政策～一流の造船国であり続けるために～』を取りまとめました。

その中で、“受注力の強化”では、国際的な環境規制に鑑み、海事業界全員が一体となって知恵を絞り、対策を積み上げていく必要が示されています。わが国の造船業は省エネ技術に秀でており、それを強化することで受注力の強化、差別化を図ることができます。

“新市場・新事業への展開”では、海洋再生エネルギーの技術開発、特に洋上風力分野がある。浮体構造物であるため造船業の果たす役割は大きい。国土交通省としても、浮体式洋上風力発電の技術基準を2012年4月に制定しました。今後、安全ガイドラインを策定し、浮体式洋上風力発電施設の国際標準化をわが国が先導します。

“業界再編の促進”が示され、アイ・エイチ・アイ マリンユナイテッドとユニバーサル造船の統合によるジャパンマリンユナイテッドの発足で、競争力強化が期待されます」

**海事都市尾道について。**

「造船産業は、尾道市に立地する製造業全体の約3割の生産額を占める重要な基幹産業です。尾道市周辺を含めて、広く産業全般の生産活動を誘発する裾野の広い産業です。造船・船用工業の競争力を将来にわたり確保し、市の経済発展を継続的に支える産業として維持、発展させることが求められています。地元、尾道市としても尾道市造船産業振興ビジョンを策定するなど積極的に取り組んでいます。これは他地域ではあまり例がないのではないでしょう。運輸局としても、尾道市や関係する団体や事業者と連携してできる限りの支援をします」

### **海事都市尾道の重要性は。**

「尾道は、瀬戸内海地域の造船産業の発展を切り開いてきた歴史があり、現在も造船・船用工業だけでなく、海運業、教育・人材育成機関、船級協会、行政機関などほぼすべての海事産業が集積するバランスのとれた海事クラスターを形成している。クラスターの成果物として、尾道発のユニークな取組みや成功事例も多い。

たとえば因島技術センターは『人材育成の因島モデル』と評価されています。尾道海技学院の日本海洋技術専門学校では、我が国初の民間完結型六級航海士養成課程を開始しています。旅客船振興策として利用者が大きく増加している『とうちサイクルーズP A S S』も尾道地区が発祥です」

### **海事都市尾道への期待。**

「日本を代表する海事都市として、持続的で競争力のある造船産業クラスターの中核拠点、造船文化の拠点都市に向けて、官民ともに連携して、今後とも一つ一つ積極的に取り組んでほしいです。

尾道だけでなく、両隣の福山、三原、対岸の今治、さらにはもっと広く瀬戸内、日本全国を視野に入れて、直面する課題の解決に向けて全国のモデルとなるような気概を持って進めてほしい。まだ、連携の余地は大きいのではないのでしょうか。産官学の関係者が定期的に集まり、新技術、新市場・事業など自由な意見交換、情報交換をする場があってもいい。キーワードは“連携”です。

振興ビジョンには、中小の企業は研究開発の各種制度の情報を得る機会が必要と指摘されています。運輸局も情報提供に努めます」